

# 福井大学研究シーズデータ

名前・学部・学科等	岩崎博道・医学部・第1内科																						
研究情報の分類	シーズ	特許	新製品	分析/解析	調査																		
研究分野の分類	13	以下の18項目から一つ選び番号を左欄に記入する。 1.物理系 2.エネルギー系 3.化学系 4.バイオ系 5.環境系 6.海洋・宇宙系 7.交通系 8.機械系 9.材料系 10.電子・電気系 11.情報系 12.建築・建設系 13.医学系 14.健康・保険系 15.看護・福祉系 16.農業・林業系 17.水産・畜産系 18.その他																					
重点研究分野への該当	I T	ナノ	バイオ	環境・エネルギー	その他																		
キーワード(5個以内)	感染症	サイトカイン	生体防御																				
研究情報の名称	サイトカイン産生制御に基づく感染症に対する新治療法の開発																						
<p>概要：同じ病原体による感染症に罹患し、軽症で終わるか、重症化するかは個人にそなわる生体防御反応の強さに依存する。私たちは、生体防御機構の中で、サイトカイン産生能に注目し、炎症性サイトカイン(TNF)と、抗炎症性サイトカイン(IL-10)の血中濃度を、様々な感染症症例において測定している。TNF 産生活性の高い人は感染症が軽症で治癒するのに対して、TNF 産生活性の低い人は感染症が重症化し易い。IL-10 に関してはこの逆となる。しかし、炎症性サイトカイン産生が過剰となると全身性炎症反応症候群という重篤な病態を引き起こすこともある。その代表例が敗血症である。</p> <p>新規性：これまで、感染症は抗生物質を投与する等、誰に発症しても同じように対応することが当然のように考えられてきたが、人によりその対応が異なることがあることを理論的に裏付けることに新規性を有する。また、あらかじめ上述したサイトカインの産生バランスを調べることにより、将来の感染症に対する個人の反応性を予測することができる。</p> <p>応用例：感染症が重症化し易いと予想される人には、ワクチンの接種を積極的にすすめることができる。また全身性炎症反応症候群を生じた症例には、サイトカイン産生を抑制したり、中和することにより、状態の改善を促すことができる。将来的に、重篤な感染症に対する新しい治療法の開発に繋がる。</p>																							
<div><div><div>これまでの感染症の診断と治療は画一的であった。</div><div>感染症治療は個人に応じた対応が必要と考えられた。</div></div><div><div>重症感染症症例における血中サイトカインの産生能に関するデータを有している。今後軽症例の検討も必要</div><div>個人のサイトカイン産生状況検索</div></div><div><div>シーズ</div><div>サイトカイン産生の制御を目的とした新治療法の開発</div></div><div><div>感染症悪化はサイトカイン産生に依存</div><div>炎症性サイトカイン抑制療法 抗炎症性サイトカイン刺激療法</div></div><div><div>感染症重症化が予想される群へのワクチン接種</div><div>全身性炎症反応症候群に対する新治療法の確立</div></div><div>サイトカイン産生制御に基づく感染症に対する新治療法の開発</div></div> <tr><td>関連している企業・大学・団体等</td><td colspan="5">東京薬科大学、帝京大学、生化学工業、三菱化学 BCL</td></tr> <tr><td>関連する特許1件</td><td colspan="5"></td></tr> <tr><td>関連する論文1編</td><td colspan="5">J Clin Microbiol 39: 2341-2343, 2001.</td></tr>						関連している企業・大学・団体等	東京薬科大学、帝京大学、生化学工業、三菱化学 BCL					関連する特許1件						関連する論文1編	J Clin Microbiol 39: 2341-2343, 2001.				
関連している企業・大学・団体等	東京薬科大学、帝京大学、生化学工業、三菱化学 BCL																						
関連する特許1件																							
関連する論文1編	J Clin Microbiol 39: 2341-2343, 2001.																						